

## 一般講演 II

座長：大岡 均至（独立行政法人国立病院機構神戸医療センター）

### Ⅷ 間質性膀胱炎による頻尿に漢方薬が有効であった 1 例

原三信病院 泌尿器科

武井 実根雄、原 律子、相島 真奈美  
一倉 祥子、内藤 誠二、山口 秋人

#### 【緒言】

間質性膀胱炎は膀胱粘膜の透過性亢進により、粘膜下に何らかの炎症性変化を来すことで、頑固な頻尿や充満時膀胱痛を訴える原因不明の慢性疾患である。麻酔下膀胱水圧拡張術にて一旦症状が改善するが、しばらくすると再発し種々の治療に抵抗性の例も少なくない。今回水圧拡張術後一旦症状改善したが頻尿が再発した症例に対し、猪苓湯が奏功し長期間にわたってコントロールできている症例を経験したので報告する。

#### 【症例と経過】

64歳女性。以前より尿は近かったが、X年10月9日肉眼的血尿、膀胱痛にて当科紹介され受診。膀胱鏡にて腫瘍なし、ハンナ病変なし。尿流測定では排尿量278ml、最大尿流率30.4ml/s、残尿量4mlと良好。検尿、尿中細胞診異常なし。排尿記録では1回排尿量100ml前後。尿流動態検査にて知覚亢進を認めたため、間質性膀胱炎を疑い同年11月24日麻酔下膀胱水圧拡張術施行し、ガイドラインG2の点状出血を認め間質性膀胱炎と診断し、術後生活指導および内服加療実施。1年2ヵ月経過した頃より柚子胡椒摂取をきっかけとして膀胱痛が再発した。冷えもあることから桂枝加朮附湯処方し、2週間で痛みは改善した。さらに8ヵ月経過した時点で頻尿となり猪苓湯を処方し改善したが、中止すると再発するため、その後は猪苓湯内服継続にて加療中である。最初の水圧拡張術後5年経過したが、再度の水圧拡張術は要せずコントロール良好である。なお長期服用による副作用は特に認めていない。

#### 【考察】

間質性膀胱炎の麻酔下膀胱水圧拡張術後、膀胱痛再発には桂枝加朮附湯が奏功し、頻尿再発に対しては猪苓湯により長期コントロールできている症例を報告した。猪苓湯は膀胱炎や尿路結石などに使用される漢方薬であり、猪苓、茯苓、沢瀉はいずれも利水剤と呼ばれて尿量減少を改善し、滑石はさらに消炎作用を有するとされる。阿膠は粘膜に潤いをつけて止血に働き、茯苓は鎮静作用を有する。間質性膀胱炎の場合これらの作用が発揮されれば、尿を希釈して刺激を減らし、粘膜下の炎症性変化を改善させ、粘膜からの出血を防ぎ、鎮静効果によって不快な症状を緩和してくれるということになる。

#### 【結語】

エキス製剤の猪苓湯の添付文書には頻尿という言葉は出てこないが、頻尿に有効であったとする報告は多く、構成生薬の作用から考えても猪苓湯は間質性膀胱炎の頻尿に対し使用する価値があると考えられる。